



授業実践事例

「英語を通して考える」
フィジーの環境問題と私たち

東京都立国際高等学校 藤村由夏先生

〔1〕授業実践のテーマ

・目的

英語科担当として、生徒たちとはともすると英語を学ぶことが「目的」となってしまう、英語を「手段」として使うことが忘れがちになっているのではないかと感じるがあった。

今回対象とした高校2年生の生徒たちは4年以上英語を学んできた訳であり、彼らに英語を使って異文化を理解する喜びを知ってもらおうべく、授業実践では「英語」と「環境」をテーマに、以下のことを目的として取り組んだ。

なお、主要な部分は英語で授業を行い、提出物は英語、また授業中生徒にも英語で話すよう指導した。

○ フィジーがどのような国であるか、どのような文化をもっているか、英語で学ぶ。



授業風景



○ 現地の高校生たちと英語を通してふれあい、自分たちと同じ点、違う点を知る。

○ 英語を使ってフィジーという異文化を知る喜びを感じ、今まで英語を学習してきたよかったという気持ちを得る。

○ 今回の

海外研修のテーマである環境問題について、自分たちで調べ、自分たちの問題として考え、英語で500語程度のエッセイを書き、またその内容について発表する力をつける。



〔2〕授業の構成

教科名：英語（英語表現）



フィジー諸島共和国
Republic of the Fiji Islands

- 担当教科：英語
- 実践教科：英語
- 時間数：7時間
- 対象生徒：高校2年生
- 対象人数：51人

面積：1万8270平方キロメートル
(四国とほぼ同じ大きさ。世銀)

人口：827,900人
(2007年、政府人口調査)

首都：スバ
(167,975人、2004年12月)

民族：フィジー系(57%)、
インド系(38%)、
その他(5%)
(2007年政府人口調査)

言語：英語(公用語)の他、
フィジー語、ヒンディー語を
使用。

宗教：フィジー系はほぼ100%キリスト教、
インド系はヒンズー教、
回教。全人口に占める割合は
キリスト教52.9%、
ヒンズー38.2%、回教7.8%

全国国際教育協会 Japan Association for Global Education (JAGE)

<http://www.kokusaiken.org/npo/>

E-MAIL webinfo@kokusaiken.org

① 時限 ② テーマ ③ ねらい	方法・内容	使用教材
① 1 時間目 (事前学習) ② 自己紹介 ③ 英語で自己表現する。 相手に対する質問を考える	・ JICA フィジー研修に行くことを告げ、現地の高校生宛に自分の好きなこと嫌いなこと、将来の夢を書いてもらう。また質問があったら書くよう指導した。	ワークシート (自己紹介 etc.)
<生徒の反応>	○ なぜフィジー? ○ フィジーの人と英語でコミュニケーションがとれるのはうれしい。 ○ 同じような歳の人が何を考えているのか知りたい。	
① 2 時間目	・ フィジーの民族衣装ブラシャツを着て、地図やポスター等を見せ、雰囲気をつくりながら授業をすすめる。	・ フィジー入国カードのコピー
② フィジーの基本的情報	・ 入国カードのコピーに英語で自分の情報を書き入れながら、フィジーの民族構成その他気が付いたことを発表させる。	・ フィジーの地図、データ
③ 藤村が研修で集めた資料からフィジーがどんな国が学び取ろうとする。	・ 地図やインターネット、参考文献からのフィジー基本情報を自分の体験を織り交ぜながら伝える。	現地で撮った写真 ・ BGM (イサレイなどフィジーの曲) ・ パーソナルシート①
<生徒の反応>	○ フィジーにインド人が半分近くいるというのは驚いた。 ○ 民族が多く、多民族国家ということがわかった。 ○ 知らない単語が多く苦労した。	
① 3 時間目	・ フィジーの人々の暮らしぶりを伝える。現地で買った物のレシートをコピーし、グループに分け、レシートにある内容を読み取り、発表させる。	・ 現地の社会科の教科書
② フィジーの暮らし	・ 購買した実物を見せ、それらのものからまたフィジーの文化についての話をすすめる。	・ 現地で集めた買い物のレシートのコピー
③ フィジーの物価や文化、特に衣食文化について学ぶ。		・ ワークシート (レシートの内容に関する質問集) ・ 実際に買った品物 ・ パーソナルシート
<生徒の反応>	○ 8月に冬のバーゲンをやっているとわかった。 ○ フィジーの伝統的な器を初めて見た。 ○ 物価は日本より安い。特に民族的なものは安い。 ○ 付加価値税というものがあるのを知った。	
① 4 時間目	・ 夏休み前に書いたフィジーの高校生に対する自己紹介と質問への返事を渡し、内容を読み取り、相手からの質問に答える。相手の将来の夢についてコメントを書かせる。	・ 現地の高校生からの自己紹介、質問への返事、こちらへの質問等が書かれたシート
② フィジーの高校生と自分たち	・ フィジーの高校生と自分たちの似ている点違う点について 300 語程度のエッセイを書かせる (宿題)	・ 相手の質問に答えるためのシート
③ 同じ年代のフィジーの生徒たちと同じ点、違う点を知り、考える。		・ パーソナルシート① ・ 英文エッセイ用シート
<生徒の反応>	○ フィジーの生徒は日本に興味を持っている人が多い。 ○ フィジーの高校生の方が夢の種類が多かった。 ○ 大体同じようだったが、都市と島に住んでいる違いがあるようだった。	
① 5 時間目	・ サンゴと森の大切さをクイズに答えながら考えさせる。	・ OISCA のパンフレット
② フィジーの環境問題。	・ 現地での環境問題をいくつか伝える。	・ OISCA の HP より
③ サンゴや森林の大切さを知り、現地の取り組みを学ぶ。	・ 環境保護に取り組む財団法人の OISCA や JICA の活動とそこで活躍している日本人の様子を伝える。	・ フィジーの記事 ・ 現地で撮った写真 ・ パーソナルシート②
<生徒の反応>	○ サンゴや森の大切さがわかった。 ○ フィジーにまで地球温暖化の影響が現れていると知った。 ○ 日本人の活躍がうれしかった。	
① 6 時間目	・ エコツーリズムについて知っていることをお互い出しあい、知識確認。	現地でエコツーリズム研修で入手したパンフレット (アンバサ村、ロビンソンクルーソー島)
② エコツーリズム	・ フィジーのエコツーリズムについて藤村が体験したこと、感じたことを伝える。	・ "FIJI TODAY 2006/2007" のコピー
③ エコツーリズムについて、英語の文章を読み、フィジーのエコツーリズムについて学ぶ。	・ フィジー政府発行の "FIJI TODAY 2006/2007" という本のツーリズムの項からエコツーリズムについての英文 (約 500 語) を読み、それを日本語または英語で要約させる。(宿題)	・ 現地で撮った写真 ・ パーソナルシート② ・ 英文 / 日本文エッセイ用シート

<p><生徒の反応></p>	<p>○ エコツーリズムという言葉は聞いたことがあるが、内容は今回初めて知った。 ○ 日本でもエコツーリズムの法律ができたとは知らなかった。 ○ ロビンソンクルーソー島は経営者が外国人（オーストラリア人）なので、いつか現地の人が経営するともっといいと思う。 ○ エコツーリズムに現地の人との交流も含まれるのは面白そう。</p>	
<p>①冬休み宿題</p>	<p>・冬休み中、自分で文献またはインターネットでフィジーのこと、エコツーリズムのことを調べ、考え、自分が現地の経営者と仮定して、どのような施設、ツアーが良いか、ターゲット、費用、内容、良いと思う理由などを500語程度の英文にまとめさせる。</p>	<p>・英文エッセイ用シート</p>
<p>②理想のエコツーリズムを考えよう</p>	<p>・また冬休み後に発表させるため、英語のレジュメも書かせる。(A4 1枚)</p>	<p>・A4 4枚用紙 (レジュメ用)</p>
<p>③自分で調べ、考え、理想のエコツーリズムの施設、またはツアーを考える。</p>		
<p><生徒の反応></p>	<p>冬休み明けの予定。</p>	
<p>①7時間目</p>	<p>・冬休みの宿題「フィジーでの理想のエコツーリズム」について英語で発表させる。 ・レジュメのコピー</p>	
<p>②エコツーリズム</p>	<p>・司会も生徒の中から選ぶ。</p>	<p>・コメント用紙</p>
<p>③理想のエコツーリズムについて、自分のアイデアを英語で発表し、質疑応答に答える。アイデアを皆で共有する。</p>	<p>・発表者のもとより、発表者以外の生徒にも積極的に授業に参加し、質問をするよう励ます。</p>	
<p><生徒の反応></p>	<p>冬休み明けの予定。</p>	

【3】 詳細説明

【3時間目】

この時間は現地地で実際買ったものを、民族衣装のブラシャツやスル（腰巻）など一部は身につけ、他のものは袋に隠し、登場。フィジーの通貨であるフィジードルのお札をみせながら、レシート5枚のコピーを配り、グループに分けそれぞれのグループが1つのレシートについて5分ほどでワークシートの質問に答えながら解説し、その後発表。実物を袋から出して私が解説を加えた。購入したものに現地でヤングナの根を粉にして飲むカバという飲み物に使う器があったのでそれからフィジーに根付くカバの文化を写真や体験から紹介した。

英語に関して言えば、レシートは現地の経済の情報の宝庫であり、様々な語彙、短縮形 (abbreviation) などにふれることができた。日本の消費税に似た付加価値税があること、ブラシャツは男性の正装になること、8月が南半球のフィジーでは冬で、ウィンターバーゲンのシーズンであること、お土産品は日本と変わらない値段だが、服などは安いと思った生徒が多かった。

【4時間目】

夏休み前、本校生徒51人に①自己紹介②自分の好きなもの嫌いなもの③将来の夢④フィジーの高校生に対する質問の4項目について書かせ、ナンディのボツワレブ高校訪問の際、そのシートを渡した。現地の高校生にも同じ項目について書いてもらうことをお願いし、日本に持ち帰ることができた。

生徒たちの期待は大きく、夏休み明け、私の顔を見るや否やフィジーの生徒から返事をもらえたか何人も生徒に問われた。授業では、生徒1人1人に返事を渡すのと同時に、フィジー、日本それぞれの内容をまとめたものを配布し、自分たちと同じところ、違うところを読み取り、英文エッセイを書くよう指導した。

【5時間目】

環境問題については近年関心が高まっているので、生徒は地球温暖化やその原因については良く知っていたが、サンゴや海の植物性プランクトンの役割についてはあまりよく知らなかったようだ。サンゴや森林の大切さを学んだ後、なぜそれらを保護する必要にせまられているのか、どのような保護活動が実際に☞で行われているのか、現地地で活躍している OISCA や



マングローブ植林



植えられた幼木



サンゴと植林について

JICA関係の人々の活動の様子を伝え、写真を使って考えさせる。

〔4〕 成果と課題

① 時間の確保

本校は国際学科の学校であり、外国のことや外国語を学ぶことに興味のある生徒が多く在籍する。また帰国生や外国人の割合も比較的高い。そのような環境の中ではあるが、年間のカリキュラムやシラバスが年度当初にはつきり決まるので、これはどこの学校でもおなじであると思うが、その後の変更がかなり難しい。今年度私は2年の英語表現(英作文)を中心とした授業を含め5種類の違った科目を担当しているので、まずどこで授業を実践するのが一番よいか、かなり悩んだ。英作文は週2時間のうち1時間はティームティーチングなので、そこでフィジーの授業はできない。そうすると週1時間となるので、9月すぐの授業から授業実践を始めた。教科書も予定通りこなさなければいけないので、宿題も多くなり、生徒には大変だったと思うが、よくついて来た。本校にある異文化理解という授業(3年生で週2単

位)にも講演者として出たかったが、今年はスケジュールが決まっていたので無理だったので、来年度チャレンジしたい。

② 科目との整合性

担当教科が英語であり、フィジー関係の授業をすべて英語で行うようにした。本校では英語理解の授業は主に英語で授業を行っているが、今年度は英作文担当であり、文法説明や和文英訳の際、主に日本語で行ってきた。英作文の授業でありながら、英文の資料を読んだり、ディスカッションや発表をしたり、かなり英語理解の授業に近いものになってしまった。ただ、まとまった英作文を2本入れることができ、生徒たちの英語での表現力の向上に役立つと思う。

③ 自分たちで調べ、書き、発表すること

日々の授業を通して「英語を手段として何かをする」ことに重点を置いて生徒と接してきたが、フィジーを材料に環境問題など色々と「料理」することが出来た。生徒は高校生なので、ただ教えてもらうだけではなく、一連の授業を通し、フィジーを身近に感じ、英語を使ってコミュニケーションをしたり自己表現をする

楽しさを味わってもらえたようだ。

フィジーはたまたま英語を公用語とする国であり、英語の授業で取り上げることが出来たが、そうでない国がもし研修国であったら何ができたか、考えることがある。

④ 文化祭での成果

9月に本校で行われた文化祭では顧問をしている国際協力ボランティア同好会の展示の一部として生徒たちと協力してフィジーのコナーを作った。フィジークイズ、エコツアーリズムについて、フィジーと日本の高校生の比較などを展示した。同好会の活動を通じて知り合ったフィジー大使館の方たちからの協力も得られ、楽しい展示ができた。

〔5〕 参考文献

(引用文献・参考資料)

- 『フィジー南の島の物語』 戸井十月著 小学館 1995
- 『総合的な学習 こう展開する国際理解教育―地球学習―』 清水書院 1999
- 『エコツアーリズム推進法の解説』 ぎょうせい 2008
- 『自然との調和を目指して―やってみよう!環境教育―』 JICA地球環



文化祭「国際協力ボランティア同好会」の写真

境部 2008
Social Science Class8/Form ②
Ministry of Education, Fiji 1998
Ravuvu, Asevela, The Fijian Way of Life. Univ. of the South Pacific, 2005

フィジー政府観光局ホームページ
<http://bulafiji-jp.com>
オイスカホームページ <http://www.oisca.org/>
ロビンソンクルーソー島ホームページ <http://www.robinsoncruiselandfiji.com/>

〔6〕使用教材(授業で使用したワークシートなど)



◆◆◆◆◆
世界にはいろいろな目で見えてみないとわからないことがたくさんありますが、学校の四角い教室で勉強している子供たちは、なかなか海外に行く機会がありません。全国国際教育協会では、学校教育で世界に目を向けていけるような教材を開発していきます。

あなたの授業実践例をご紹介ください!

グローバル教育新聞で紹介し、教育に役立てたいと考えておりますので、E-MAIL までご連絡ください。
webinfo@kokusaiken.org